

教科名	保健体育	学 年	3	週時間数	3
使用教科書	中学校保健体育（学研）				
副教材等	「体育実技」（学研） 「保健資料ノート」（正進社）				

教科の目標		○運動の合理的な実践を通し運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに基本的な技能を身に付けることができる。 ○自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ○運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむことができる。		
授業の進め方		○毎時間準備運動をしながら、体力づくりと怪我の予防をしていきます。 ○各種目の基本的な動作や技術の練習をして、技能の向上を図り、記録を測りながら、自己の課題の達成度を図ります。 ○グループ活動を積極的に取り入れ、自分たちで課題発見・解決できるような環境をつくります。 ○準備や片付けなど互いに協力してできるようにします。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	○選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義についての考え方を理解している。 ○選択した領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	○生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫している。 ○自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	○運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任参画、共生などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。
	方法	・定期テスト ・技能テスト ・習熟度 ・ワークシートの内容（知識）	・グループ活動への言動 ・ワークシートの内容（思考） ・体操への取り組み方 ・技能テスト	・グループ活動への参加 ・ワークシートへの取り組み方 ・授業への取り組み方
	学習のポイント	○自らの課題を考え、上達するために努力する意欲を持つよう。 ○粘り強く種目に取り組もう。 ○知識を技能に結び付けよう。	○自らの課題を持ち、学ぶ意欲を高めよう。 ○グループ活動において、成果が生まれるような働きかけや思考力を身に付けよう。	○体操服・ファイル・図解体育・保健体育教科書を必ず用意しよう。 ○グループ活動に主体的に参加しよう。 ○健康・安全に留意し行動できるようにしよう。
定期テスト範囲	家庭	○日頃の健康管理に努めよう。 ○プリントの内容を理解し覚えよう。 ○体育実技や保健体育の本を読み学習を深めよう。		
	1 学期中間（5 月下旬頃）			
	1 学期期末（6 月下旬頃）		集団行動 ラジオ体操 選択種目 感染症の予防	
	2 学期中間（9 月下旬頃）			
2 学期期末（11 月下旬頃）		選択種目 個人の健康を守る社会の取組		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	体づくり運動 体育に関する知識	・ 自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体力を高めたりすることができるようにする。 ・ 実生活に生かす運動の計画を立てることができる。	・ ラジオ体操第1 ・ 集団行動 ・ 体力を高める運動 ・ 体ほぐし・体力の意義 ・ 新体力テスト
	5	感染症の予防	・ 自らの健康について考え、感染症について理解を深める。さまざまな感染症について深く考えることで実生活に役立てる。	・ 感染症の予防
	6	陸上競技Ⅰ	・ 仲間同士で協力しあい技能向上の楽しさや喜びを味わう。	・ 走種目
	7	器械運動Ⅰ	・ 自己の能力に適した技を選択し、個々の技ができるように技能を高める。	・ マット運動・跳箱
2	9	器械運動Ⅰ	・ 自己の能力を把握し、個人的技能や集団的技能の高まりを図り、作戦を立てながらゲームを進めることができる。	・ 跳び箱
		球技Ⅰ		・ バスケットボール ・ サッカー
	10	個人の健康を守る社会の取組	・ 健康のために働きかける取組について理解し、今後の生活に役立てる。	・ 個人の健康を守る社会の取組
	11	陸上競技Ⅲ	・ 自己の能力を把握し、持久力の向上と自己管理能力の向上を図る。	・ 長距離走
3	1	武道 陸上競技Ⅱ	・ 技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、技の名称や行い方を理解する。 ・ 仲間同士で協力しあい技能向上の楽しさや喜びを味わう。	・ 剣道 ・ ハードル走
	2	球技Ⅲ ダンス	・ 自己の能力を把握し、個人的技能や集団的技能の高まりを図り、作戦を立てながらゲームを進めることができる。	・ ソフトボール ・ 創作ダンス
	3		・ みんなで踊る楽しさや喜びを味わい、イメージを捉えた表現や踊りを通した交流をする。	

教科名	技術	学 年	3	週時間数	0.5
使用教科書	「New 技術・家庭 技術分野」(教育図書)				
副教材等	「生物育成の技術 技術分野ワークノート」(地域教材社) 「情報の技術 技術分野ワークノート」(地域教材社)				

教科の目標		○実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されている技術についての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし課題を設定しそれを解決する力や、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度等を育成する。		
授業の進め方		○ワークノートを中心に教科書なども活用しながら学習を進めます。学習形態は4人程度のグループで進めていきますので、わからないことや困ったことはまずはグループで相談して解決を目指しましょう。ただし作業の場面では安全面を考え、わからないことや自信がないことは先生に確認しましょう。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つけた たい 力	○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだし課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表示し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
	方法	・知識については主に定期テストをもってその定着を確認し、評価します。技能については技能テストや作業の確認などを、主に授業中に行い評価します。	・プリントや定期テストで確認し、評価します。	・プリントや定期テストで確認し、評価します。
	学習の ポイント	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。	○学習に取り組む様子や学習内容の定着を確認するため、提出物などは期日を守り提出してください。
	家庭	○学習内容を実生活で生かし、より豊かな生活を創造しましょう。		
定期 テスト 範囲	1学期中間(5月下旬頃)			
	1学期期末(6月下旬頃)		「生物育成の技術」にかかわる内容から出題します。	
	2学期中間(9月下旬頃)			
	2学期期末(11月下旬頃)		「生物育成の技術」と「情報の技術」にかかわる内容から出題します。	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	〈生物育成の技術〉	〈生物育成の技術〉 ・生物の育成にかかわる内容について学習します。 ・目的をもって計画的に生物の育成をします。	〈生物育成の技術〉 ・生物を育てる技術を見つけよう ・生物を育てる技術を知ろう ・生物育成の計画を立てよう ・計画に沿って作物を栽培しよう
	5			
	6			
	7			
2	9	〈情報の技術〉	〈情報の技術〉 ・計測・制御システムについて学習します。	・生物を育てる技術の工夫を調べ考えよう ・社会の発展と生物育成の技術
	10			〈情報の技術〉 ・計測・制御システムの技術を知ろう ・計測・制御システムの設計のしかたを知ろう
	11			
3	12		・計測・制御システムの設計製作をし、身近なコンピュータを利用した機器の働く仕組みを考えます。 ・1年間の学習をふり返り、実生活に生かす態度を養います。	・設計に沿った計測・制御システムを製作しよう ・社会の発展と情報の技術
	1			・1年間の学習で学んだことをまとめよう
	2			
	3			